

< 第 2 回 「ガバナンスと開発」プログラムについて >

本年 10 月より、開発研究所 (IDS) の「ガバナンスと開発」修士課程 (MA、1 年間) に在籍している黒田孝伸と申します。以前より、ワシントン DC フォーラムにおける議論は HP 等で拝読させて頂いており、ワシントンに行く機会があれば是非出席させて頂きたいと考えています。さて、第 1 回は灘本さんからサセックス大学の全般的なご紹介がありましたので、今回は私の在籍する「ガバナンスと開発」コースにつき、ご紹介させていただきます。

本コースは、2000 年 10 月に開講され、今年度で開講 4 年目を迎えました。IDS に開設されている開発学関連コースの中ではかなり新しいコースです。私は開講以来初めての、また現在唯一の日本人学生です。24 名の学生の国籍はカンボジア、アフガニスタン、フィリピン、インド、パキスタン、アルメニア、コロンビア、ニカラグラ、EU5 カ国など 16 カ国に及んでいます。本コースでは、豊富な職務経験が受入条件であり、「ミッド・キャリア」向けのコースとなっています。そのため、学生の平均年齢は 30 代半ばと推測され、他の開発関連コースと比べてもかなり高いようです。同級生は、政府機関、国際機関、国際 NGO、ローカル NGO における開発分野での豊富な経験を有しています。私自身は、3 年間の青年海外協力隊 (ケニア) を経て、外務省に 14 年間お世話になり、本省、在外公館 (シリア・ガーナ) で主に経済協力を担当してきました。

「ガバナンスと開発」コースの講義内容は、1 学期が「ガバナンス・政治・開発」と「グローバル・ガバナンス」、2 学期が「社会のエンパワメント」、「公共管理・機構」、「人権と開発」、「環境と開発」から 2 科目選択、3 学期が「地方分権・地方政府」、「紛争管理」、「NGO の役割」、「財政管理」、「ジェンダーと開発」から 1 科目選択及び政策ペーパー (卒業論文) の準備・作成となっています。(講義内容の詳細に興味のある方は IDS のホームページ「<http://www.ids.ac.uk/>」をご参照ください。)

1 学期が始まって 4 週間が過ぎました。最初の 3 週間の講義は、開発理論や開発における政府の役割に関する抽象的な話題が中心でしたが、今週からはより具体的な事例 (人権、東アジアの経済成長) が扱われるようになってきました。講義はいずれも 24 名の学生が口型に席につくセミナー形式であり、午前中が教官による説明及び質疑応答・討論、午後は午前中のテーマを踏まえての小グループでの討論となっており、学生には積極的な発言が求められます。講義は週 2 回ですが、予習、グループ発表の準備、週毎の講義内容を踏まえた小エッセイの提出、ターム・ペーパーの準備作業などに追われ、時間的な余裕はありません。

なお、先週は、IDS に出張で来られた米国カルフォルニア大学の教授による「貧困削減ための法的エンパワメント」についての特別講義がありました。また、IDS 在籍の大学院生のみならず、学生の誰もが自由に聴講できる「サセックス開発セミナー・シリーズ」という特別講義がロンドン大学等他大学の講師を招いて 2 週間に 1 回開催されています。

現在までのところ、講義についていくことに苦労していますが (南アジアの学生の英語にまだ慣れて

いません)、今後、自分の経験も積極的に紹介しつつ、多くの同級生たちと経験を共有しながら、共に学んでいきたいと考えています。

2003 年11月11日

(ガバナンスと開発修士課程 黒田孝伸)



(イギリスらしく曇り空の下のキャンパスの風景)